

式 辞

このたび、農学部一年生三四二名、三年次編入生一名、工学部一年生五七一名、三年次編入生七七名、合計九九一名の方々を、東京農工大学の新たな学部生として迎えることができました。入学された皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、最高学府である大学を目指して、これまで相当の努力をし、その結果として今日を迎えられたことと思います。ご列席の畑中孝晴同窓会長、藤森明彦経営協議会委員をはじめ、理事、監事、学部長、研究科長、評議員、本学教職員とともに、心からお祝い申し上げます。

新入生のこれまでの学習を側面から支援し、励ましてこられたご家族の皆様も大きな慶びを抱いて本日ここにご列席のことと思います。入学をお祝い申し上げますと共に、これからの大学生活を引き続き温かく見守って下さいますよう、お願い申し上げます。

なお、新入生の中に、アジアとアフリカの八カ国から十六名の留学生が含まれております。皆さんは異なる言語、文化、習慣の中でこれから大学生活を送ることになりますが、一日も早く日本の生活に慣れ、本学における学園生活が軌道にのることを祈っております。かつ、皆さんには皆さんの母国と日本との相互理解と友好関係の増進の架け橋になっていただくようお願い致します。

さて、入学された皆さんは本日より東京農工大学の一員として活動を始めます。その東京農工大学については是非知っておいていただきたいことをまず二つばかりお話ししましょう。

まず東京農工大学は皆さんが思っている以上に大変に優れた大学であるということです。本学は百四十年にもならんとする長い歴史と伝統のある科学技術系大学ですが、農学と工学の分野の研究では日本のトップクラスに位置する大学である、ということです。このことは残念ながら受験界では広く知られていることではありません。本学は国立大学ですから、基本的には運営資金は国から支給される運営費と皆さんからの授業料です。それ以外の収入は外部資金といわれます。この外部資金は、全国の大学・研究所に所属する研究者の間で厳しい獲得競争が行なわれ、その結果として選ばれた優れた研究に対して支給される研究費です。すなわち、これを獲得するには優れた研究者としての教員を豊富に持つことが必要ということです。本学の外部資金が大学全体の運営費に占める割合は全国で三番目の高さを誇っております。このことは本学教員の研究の質の高さがトップクラスにあることを示しております。本学の研究力の高さを示すデータはこれ以外にも幾つかありますので、ホームページで是非確認してみてください。この種の情報は、受験界ではほとんど取り上げられないために、残念ながら広く知られているわけではありませんが、本学は全国でも有数の実力教員から成る大学なのです。皆さんはそのような優れた教員が豊富に在籍している本学を選び、見事に合格し、その一員となりました。本学の一員であることに大きな誇りをもって進んでいただきたいと思います。本学は現状に満足せず、全学一丸となってさらに一層高いレベルの国際的教育研究拠点大学を目指して進んでおります。皆さん

は安心して思う存分本学で学んで下さい。

次に本学の基本理念についてお話いたします。本学の基本理念は英語表現にしたときの頭文字をとって MORE SENSE と略されます。その意味するところは以下のようです。二十世紀の社会と科学技術が顕在化させた深刻な課題に地球温暖化、環境汚染、人口急増による食料不足、エネルギー不足などがあります。これらは人類の生存そのものを脅かす地球規模の大問題です。これらグローバルな課題を如何に解決するかは二十一世紀の科学技術に課された重要課題ですが、これらの多くが農学や工学、あるいはその融合領域にかかわりのあるものです。これらの学問領域を柱とする本学はまさにこれらグローバルな問題を解決し、循環型社会、持続発展可能な社会の構築に向けて大きな役割を果たしうると考えられます。二十世紀の負の遺産を解消し、美しい地球の持続を実現するだけでなく、人類の福祉とさらなる発展に向けて大きな役割を果そう、という壮大な理想を意味するのが本学の基本理念 MORE SENSE なのです。皆さんにはこれから日々学ぶ中で、この基本理念である MORE SENSE をときどき思い起こし、みずからの専門で目指す方向性を見定めていただきたいと思います。

さて、本学における学生生活を実り多いものにするために、皆さんに期待したいことがあります。入学された皆さんが知的にも、人格的にも大きくなって指導的立場の技術者に成長するプロセスの中で、大学生活が占める重要さについて、ここで改めて考えていただきたいということです。大学は最高学府と言われ、知の宝庫です。皆さんが選んだ専門分野における高度専門職業人になるのに必須の知識体系とその教育の枠組みが用意されており、先ほど紹介したような優れた教員が皆さんをサポートしてくれます。知識基盤社会といわれるこれからの高度化した社会において、世界の第一線で堂々と活躍できる人材を育成する体制が用意されております。それを自分のものにする場として大学があるといえるでしょう。人格形成の場としてはどうでしょうか。大学生活ではこれまでの皆さんの生活範囲とは比較にならない広がりがあり、非常に多様性に富んだ人との交流があります。キャンパスは国際色豊かでもあります。皆さんの視野も自然に広がり、世界に向き、国家や世界を論じあうことになるでしょう。その中でいろいろな考え方があること、またそれを尊重することの重要性を知るはずで、人格を磨くには格好の場となるのです。

このように、大学生活は皆さんの人間形成において最も重要な時期であるといえます。本学はその重要な時期にある皆さんの期待に応えられる体制を準備して皆さんをお迎えしました。知的にも人格的にも大きく成長していただきたいと思いますが、そのためにも、皆さんには明確な目標を定め、それに向けた大学生活を心がけていただきたいと期待いたします。入学式を迎えた今、皆さんはこれからの学園生活に大きな夢を抱いているものと思います。その夢は、入学できたことによる一つの開放感のもとで漠然としたあこがれのような曖昧な形にしかなく、なっていないかも知れません。それをより明確なものにしたいと思っています。

目標を定めるにあたっては、次の二つの側面から考えることが重要と思います。

まず一つ目です。アメリカのサブプライムローン問題に端を発した金融危機と経済的混乱は全世界に大きな影響を及ぼしております。世界的にリストラが行なわれ、職を失う人が少なくありません。このような状況は皆さんが卒業するころにはかなり改善していると期待できそうですが、このような状況が繰り返し起こらないという保証はありません。そのような状況下でも必要な人材とされる立場になれるようなしっかりとした専門性を身につけた技術者を目指していただきたいと思います。皆さんが身に付けた専門が社会に出てから心強い武器になるよう、自らの専門分野で十分な知識と実力を蓄えるべきです。そのためには、皆さんの勉学における主体性こそ重要であることを自覚していただきたいと思います。高等学校までは、一定の範囲内の知識を吸収し、理解できればよかったです。大学ではこれでよいという範囲はありません。皆さんが学習する過程での主体性次第で領域は大きく広がっていきます。与えられたカリキュラムを受身で履修するのは大学の勉学の態度ではありません。“主体的に能動的に学ぶ姿勢”こそ、大学の学びの基本です。この基本姿勢の上で、自らが目指す技術者像を固め、それに向かって進んでいただきたいと思います。大学は皆さんのこのような主体性に十二分に応える用意があります。

次は、グローバル化の時代に相応しい国際的教養人を目指してほしいということです。世はまさにグローバル化の時代です。皆さんが大学卒業後に活躍する場はグローバル化した世界です。種々の歴史、文化、伝統を持つ様々な国の人々との交流が日常的なものになっております。皆さんにはそのような社会で活躍することが期待されます。そこでは、コミュニケーションの手段としての英語の重要性は勿論ですが、歴史も文化も異なる国々の人々と親しく交わるには、広い教養に包まれ、信義を重んじ、心と心の触れ合いができるようにならなければなりません。単に専門分野で優れているだけでなく、それとは別の世界も併せ持つ人を目指して下さい。学生時代は、自由に使える時間を豊富に持てる貴重な時期です。潤沢な時間は学生の特権でもあります。これをフルに活用し、専門書以外の書物にも興味を向け教養を深め、人との触れ合いの中で人格を磨き、グローバル化の時代に相応しい国際的教養人としての自分自身を磨く努力をしてほしいと思います。

以上、これからの皆様の本学における学園生活が実り多いものになることを願い、本学で学ぶにあたっての私の期待について述べました。今日の希望に満ちた気持ちを忘れず、何事にも自発性と行動力を持ってあたる積極的な学園生活を送って下さい。皆さんの主体性こそ肝要であり、受身であってはならないことを肝に銘じて欲しいと思います。皆さんが明日を担う社会人として大きく成長されることを期待いたしまして、式辞と致します。

平成二十一年四月九日

東京農工大学長

小畑 秀文